



平成25年度 重点研究まとめの会
平成26年2月26日

青木村立青木小学校

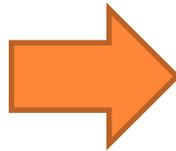
- ☆[じどうしゃくらべ] 本文から、「しごと」と「つくり」についてかかれた文を見つけ出す。・・・学び合い 友だち（ペア）、全体での話し合い
- ☆[これは、なんででしょう] 題材の特徴を使って、問題文を考える。・・・学び合い グループでの話し合い など

◎成果

- ▣ ペアで情報交換をすることで、書けずに困っている子の手助けになった。
- ▣ ペアで話したり、情報交換をしたりすることで、考えが広まった。その後の発表では、多様な意見が出てきた。
- ▣ 自分だけでは思いつかなかった他の考えを知り、自分の学びに取り入れることができた。

●課題

- 友だちの意見と比べる時に、何を比べたらいいのかあいまいだった。
- 話し合うときに、やるが多すぎて混乱していた。



1. 話し合いがメインの授業と、様々な活動に重きを置いた授業とに分ける。（主眼を明確にする）
2. 話し合うことは、思い切って一つに絞り、話し合いの準備はあらかじめ事前に、丁寧に行っておく。（「これは、なんででしょう」の場合、事前に「もの」を決めて、ある程度「ヒント」も書かせておく。本時では、観点に沿って選ぶだけ。等）
3. 話し合う観点をわかりやすく伝え、しっかり共有させる工夫が必要。
4. 違いを明確化する。（違いに注目させる。）

1年 しらせたいな、見せたいな

成果と課題

1年2組 原田佐智子

主眼 短冊カードを選択して文章の順番を考えた子どもたちが、自分で 全体の文章を読み返したり、友だちに聞かせたり、見てもらったりすることを通して、「。」などに注意して文章を直すことができる。

◎成果

短冊カードを使って短い文章を書き、短冊をつなげることにより、長い文章を書くことができた。

文の終わりに丸がついているか、字の間違いないかペア学習により複数の目で確かめることができた。

●課題

1時間の授業内容の精選。

- 順番決めと、添削の両方をやったが、内容が多すぎた。

添削の指導の仕方。

- 直す必要のない部分を直させている児童がいた。



単元名 「おにごっこ」

2年1組 大井 和彦

【主眼】

初めの段落にある第1の問いかけ「どんな遊び方があるのでしょうか。」に対する答えとなる文章を並べ替えた子どもたちが、第2の問いかけ「なぜ、そのようなあそび方をするのでしょうか。」に対する文章を、それぞれの「どんなあそび方があるでしょう。」で並べ替えたそれぞれの文章に対し、その理由となる文章を選ぶ場面で、自分の考えやその考えの理由をもち話し合うことを通して、正しい理由となる文章を見つけることができる。

【成果】

- ・タネをまく(仕かけ)ことにより、学習意欲がまし、課題追究が深まる。
- ・プチ学び合いにより、自分なりの考えを持つことができる。
- ・全体の学び合いは極めて重要である。また、授業者が引っ張るのではなく、あくまで子ども達に学びとらせる。そのための教師の出が必要。

【課題】

- ・理由を書かせることは低学年では時間がかかり、授業のリズムを阻害することがある。対応することが大事ではと思うがどのように対応すればよいか。
- ・プチ学び合いの必然性のあるタイミングのとり方。

単元名 読んで、せつめいのしかたを考えよう 「しかけカードの作り方」

2年2組 藤原朱実

主眼 しかけカードをどういうふうにするのか興味を持った子どもたちが、短冊を並び替えて作り方の順番を考えるを通して、順序を表す言葉が「じょうずにつくるためのヒント」であることを理解することができる。



成果

- ・短冊を並び替えることで、接続詞に注目することができた。順序を考える部分を絞り込むことができたので、プチ学び合いがしやすかった。
- ・カメラを使って手元を映しながら説明することで、子どもたちが安心して考えを伝えることができた。また、発表したいという意欲がさらに湧いたと思われる。

課題

- ・子どもたちは自然にプチ学び合いを始めていた。さらに叙述に目がいくように音読をさせるとよかった。自然発生的なプチ学び合いで、個の学びを深め、全体の学び合いにつなげていきたい。
- ・学び合いの後の「一人に還る」時間の確保ができなかった。一人に還ることで、その子が自身の思考の変化を感じ取っていく。個の中の「伸び」の部分を保証していくことを必ず取っていきたい。



3年「言葉を集めてゲームをしよう

～にた意味の言葉、反対の意味の言葉～」 3年1組 小池理恵子

【主眼】

似た意味の言葉の関係を知って言葉集めをした子どもたちが、反対の意味の言葉集めをして、カードゲームの準備をすることを通して、言葉の意味やその関係の理解を深めたり語彙を増やしたりすることができる。

【成果】

《タネをまく》

カードゲームという設定にしたことで、意欲的に取り組めた

《学び合い》

「となりの友だちと見合う」時間を取ったが、辞書を引きながら自然と隣の友だちと話をすることが、プチ学び合いになっていた。

《一人に還る》

「もっといっぱい調べたい」という意欲を持てた。また、反対語を表す記号などを見つけたりして、探し出すポイントをつかむことができた。

【課題】

《説明は短く》

説明が長くなり、意欲をそいでしまった。

《カードゲームにつなげて》本時もカードを作る、この言葉にすると言いカード(問題ができる)等、カードゲームに結びつけて言葉を探したり分類するとよかった。



4年「詩を書こう」「野原の仲間になって」 4年1組 久保田俊也

～4年1組詩集『みんなののはらうた』を作ろう～

【主眼】

どんな野原の住人についての詩を書こうか考えた子どもたちが、野原の住人になりきって、野原の様子や、見えてくる風景、聞こえてくる音などを想像したことをワークシートに書き出したり、「のはらうた」の特徴を参考にしたりすることを通して、野原の住人の特徴をとらえた詩を書くことができる。

【成果】

・単元のめあてを「4年1組詩集『みんなののはらうた』を作ろう」にしたことは、野原の住人になりきって進んで詩を作ろうとする意欲を高めることに有効であった。

・単元を通しためあてを持つことで、本時の「タネをまく」が短時間で児童の心に据わることが分かった。

・詩を書かせる手だてとして、「のはらうたマップ」を自分で考えたり友達に考えてもらったり(プチ学び合い)したことで、豊かな内容の詩が書けるヒントとなることが分かった。

【課題】

・「のはらうたマップ」の中身を、もっと吟味するとよかった。なかなか書き込めない項目があった。

・「プチ学び合い」の流れが児童にとって必要であったかどうか。児童が必要と思う学び合いの設定をさらに考えたい。

・なかなか詩を書き出せない児童には、教科書の「のはらうた」の良さ(擬音、繰り返し、語尾・文末など)を真似たり取り入れたりさせれば良かった。

・本時を振り返る「一人に還る」時間は、次時への見通しをもつためにも、確保すべきであった。



のはらうたマップに書き込む児童たち



プチ学び合いで意見交換する児童たち

単元名 国語科『天地(てんち)の文(ふみ)』のメッセージを知って楽しく音読しよう」 ～卒業・進学のを迎えて～

6年1組

小泉 文明

【主眼】

現代と違う読み方・区切りなどを確認した子どもたちが、「天地の文」の大体の意味を理解すると共に、作者：福澤諭吉のメッセージ(若い時にいろいろがんばることの大切さ)を知ることを通して、音読・暗唱への意欲をより高め、楽しんで音読することができる。



【成果】

- 作者のメッセージをとらえさせるために、文章を空欄にして提示したことは、児童がより叙述に着目することにつながった。
- 全体学習では意見を出す機会の少ない児童たちが、少人数(班)の中で自分の考えを出しながら前向きに学習に取り組むことができた。
- 音読に対して苦手意識を持っている児童が、特徴あるリズムを感じながら多少なり自信を持って音読できた。

【課題】

- 単元の主願として「楽しんで音読する」ことをあげたが、どのような状況になると音読を楽しむと言えるのか。
- 少人数での話し合い(プチ学び合い)、全体でのまとめ(全体学び合い)をする場面で、個人・班の違い(そう考えた理由など)を出し合えることが本当の「学び合い」につながる。(活動だけでなく、つけたい力を大切に)
- 個々が本時をふり返る(一人に還る)時間を必ず確保すること。

青木小学校視聴覚教育に対する研究テーマ

「国語科の授業における視聴覚機器の効果的な使い方」

実証授業：7月2日 単元「文章と対話しながら読み、自分の考えをもとう」

『感情』

6年2組 西本 百合子

主眼：自分の考えと筆者の考えを比べて「感情」を読んできた子どもたちが、筆者が読み手に伝えたいことを考える場面で、自分や友の考えを比べたり、筆者が呼びかけている言葉を考えたりしながら読む活動を通して、筆者の意図を理解したり、自分の考えをまとめたりすることができる。

成果

- ・理解の程度に差があった児童達を学習課題へ向かわせるための発問が良かった。
- ・筆者の呼びかけの欄を提示したタイミングと、デジタル教科書による方法が効果的だった。
- ・自分の考えの根拠となる叙述をデジタル教科書で児童にマーキングさせたことが、全体に理解させる手立てとなった。
- ・三つの考えを発表させ、それと自分の考えを比較する場面で全体の学び合いを成立させることができた。



課題

- ・プチ学び合いを、児童が必要感を感じるような流れで有効に設定したい。
- ・デジタル教科書は字が小さくて後ろからは見づらく、言葉の吟味まではしづらい。
- ・筆者の意図に迫り、更に自分の考えと比較して自分の考えを再考できるようにしたい。



単元名 音楽科「曲想の移り変わりを感じ取りながら聴こう」 ～ハンガリー舞曲第5番～

櫻井 睦子

【主眼】

身体表現「カップダンス」をしながら『ハンガリー舞曲第5番』を聴く場面で、音楽の拍を合わせることに意識を向けている子どもたちが、速度の変化や旋律のまとまりの違いに気づき、そのよさを味わうことができる。

【成果】

- ・カップダンスは拍に着目するのに有効だった。
- ・自己課題である鑑賞の授業における「学び合い」の効果が
見えた。

自己表現が苦手なF君がグループで自分から意見を言っていた。
→自分で考える段階で自分の考えが持てたこと。グループで同じような意見が出て安心したことによるだろう。

【課題】

- ・学び合いで何を学んでいるか、子どもの姿で見極めていく。
- ・学び合いが効果的に生きる鑑賞の授業をさらに他の曲で発掘していきたい。

